

岩手県沿岸部中核病院における震災復興医療支援モデルの構築

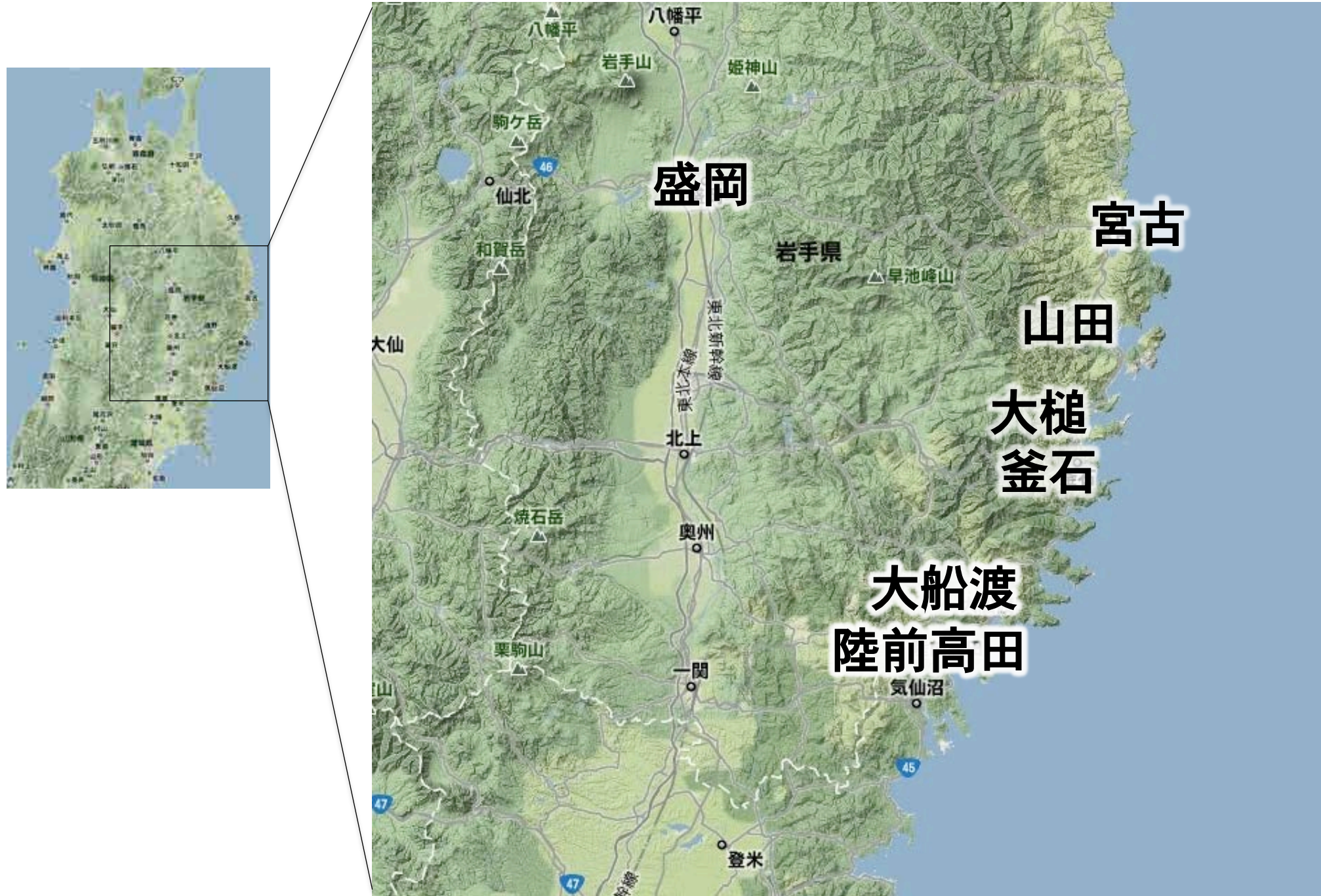
齊藤 修^{1,2)}、清水直樹^{1,2)}、黒澤 寛史²⁾、瀧向 透³⁾、大木 智春⁴⁾、野原 勝⁵⁾、井上 信明^{1,2)}、六車 崇²⁾、羽鳥 文磨²⁾、市川 光太郎²⁾

1) 東京都立小児総合医療センター 救命・集中治療部、2) 日本小児救急医学会 東日本大震災支援特別委員会
3) 岩手県立大船渡病院 小児科、4) 岩手県立高田病院 小児科、5) 岩手県保健福祉部 医療推進課

【背景・目的】 東日本大震災発災4日目に日本小児救急医学会は、東日本大震災支援特別委員会(以下、当委員会)を設立し、のべ21隊の医療支援隊を陸前高田地域中心に派遣、発災58日目に日本小児科学会医療支援隊へ引き継いだ。その際、気仙医療圏の医療支援体制として岩手県立大船渡病院を中核とし、陸前高田地域の震災医療から復興、地域医療支援モデルを構築した。その過程を検証する。

【方法】 当委員会報告書および現地関係各所への聴取による。

【結果】

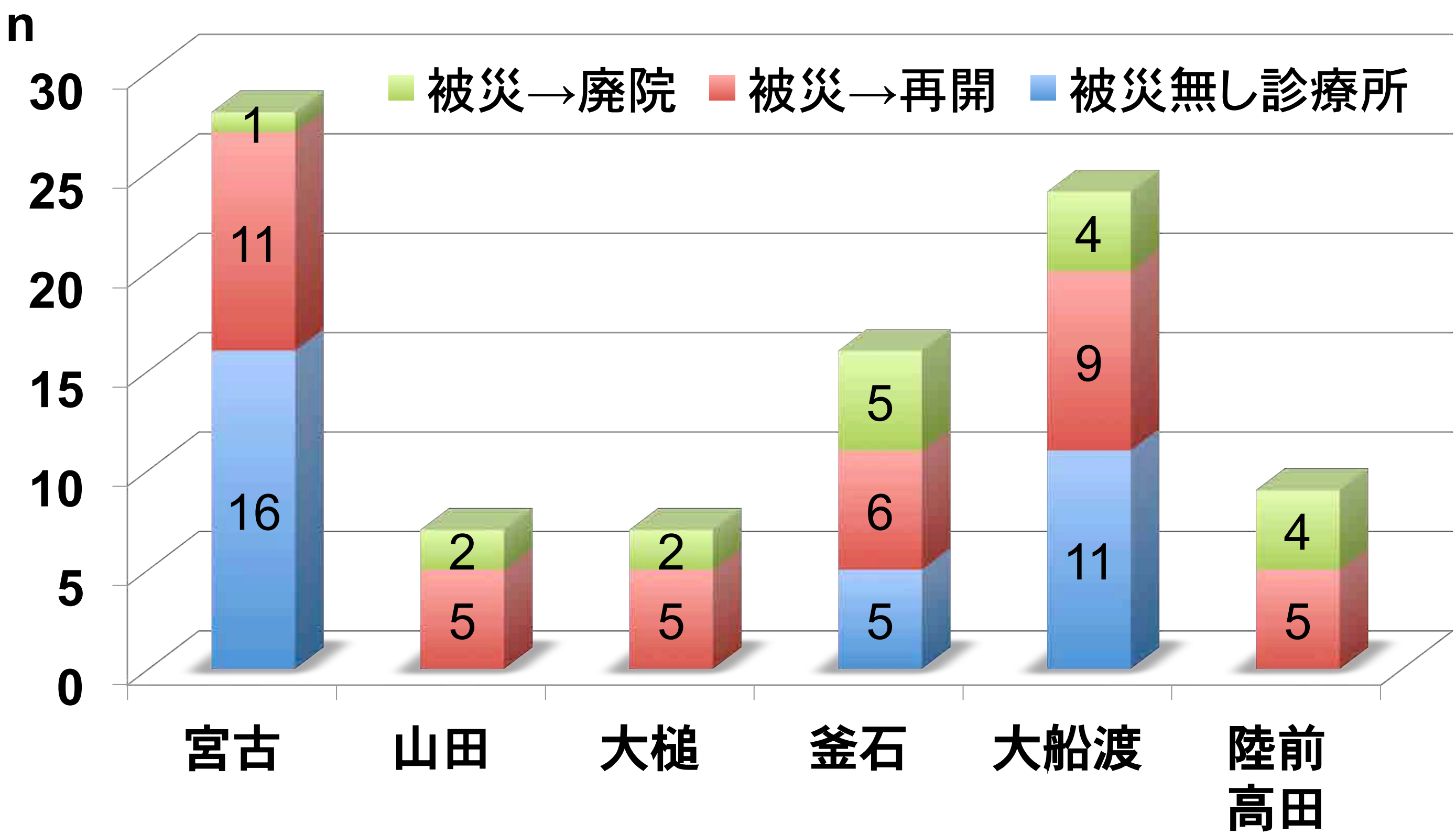


【岩手県 沿岸部地図(google mapより)】



浸水被害	1/2階	2/3階	4/4階
死亡・行方不明職員数	1人	3人	6人
避難/入院数	24/41人	15/54人	36/52人

【岩手県沿岸部基幹病院 被災状況 2011.3-4】

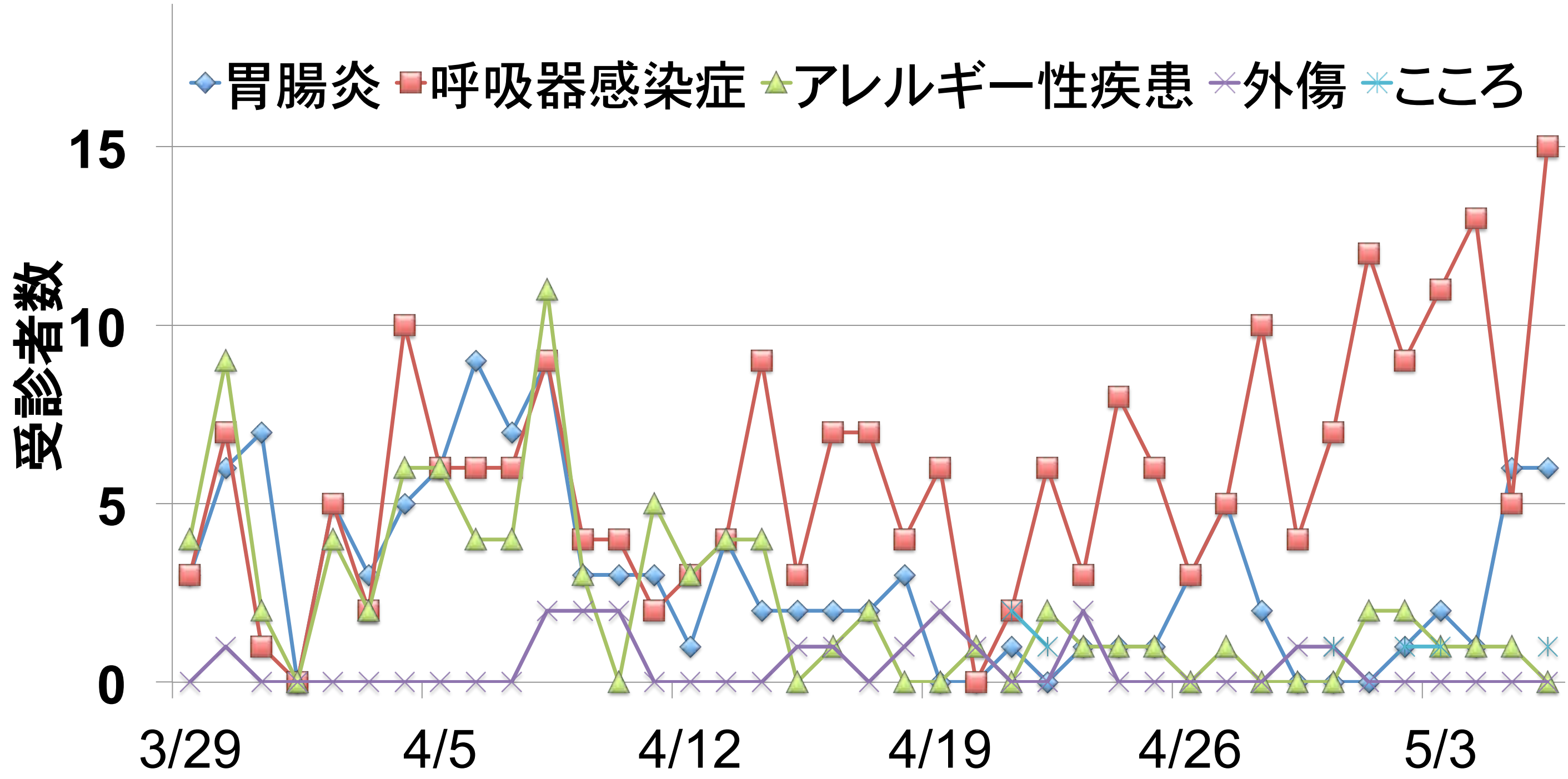


【岩手県沿岸部 診療所被災状況 2011.11】



避難民	854→241人	1250→1850人
被災前小児科医	0人	2→1(0)人
支援小児科医	1→3人	0→1(2)人
支援期間	3/23 - 25	3/26 - 5/11

【当委員会 支援避難所】



【当委員会による主な診療疾患の推移】

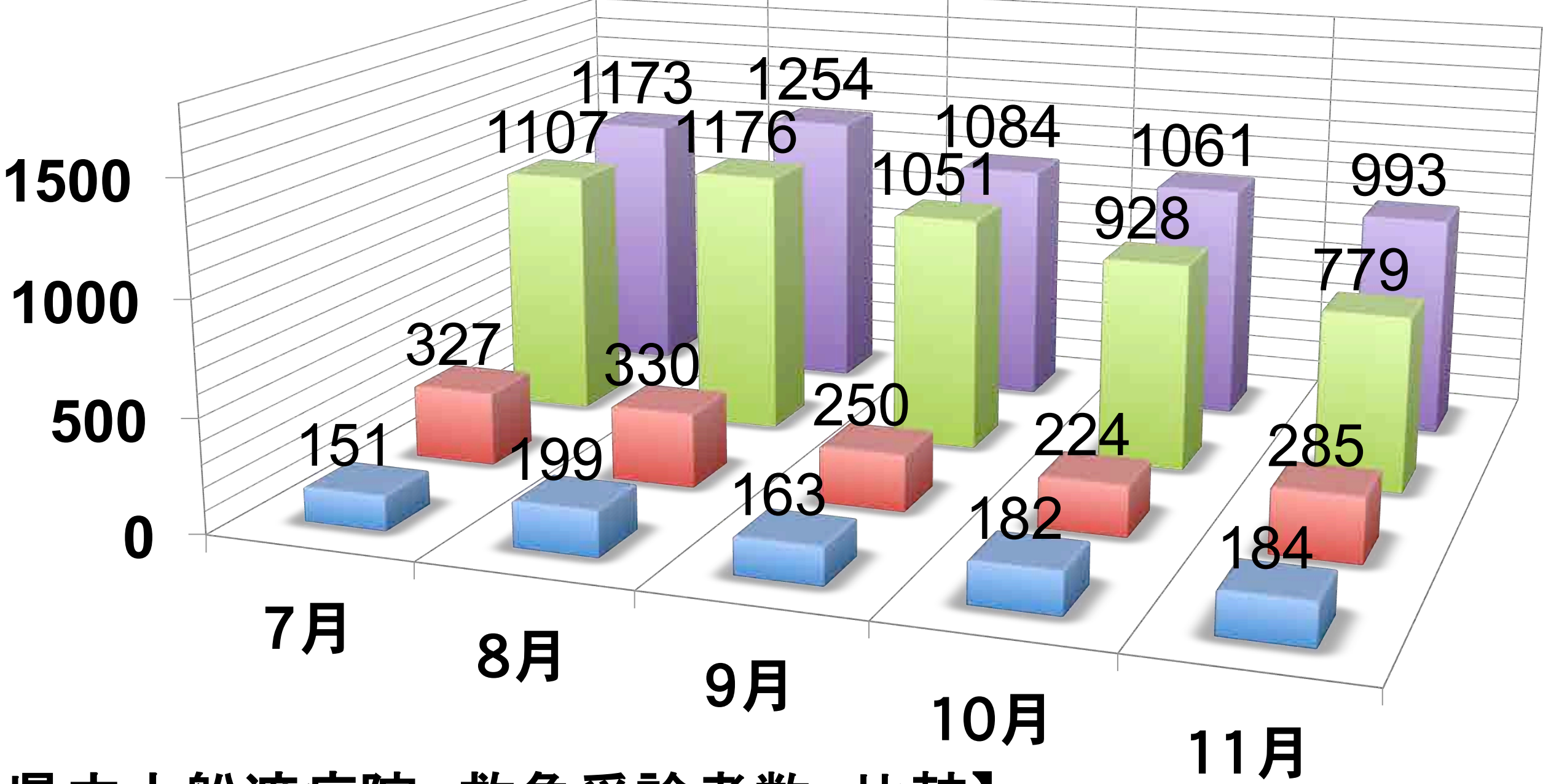


【当委員会による震災復興医療支援モデル】

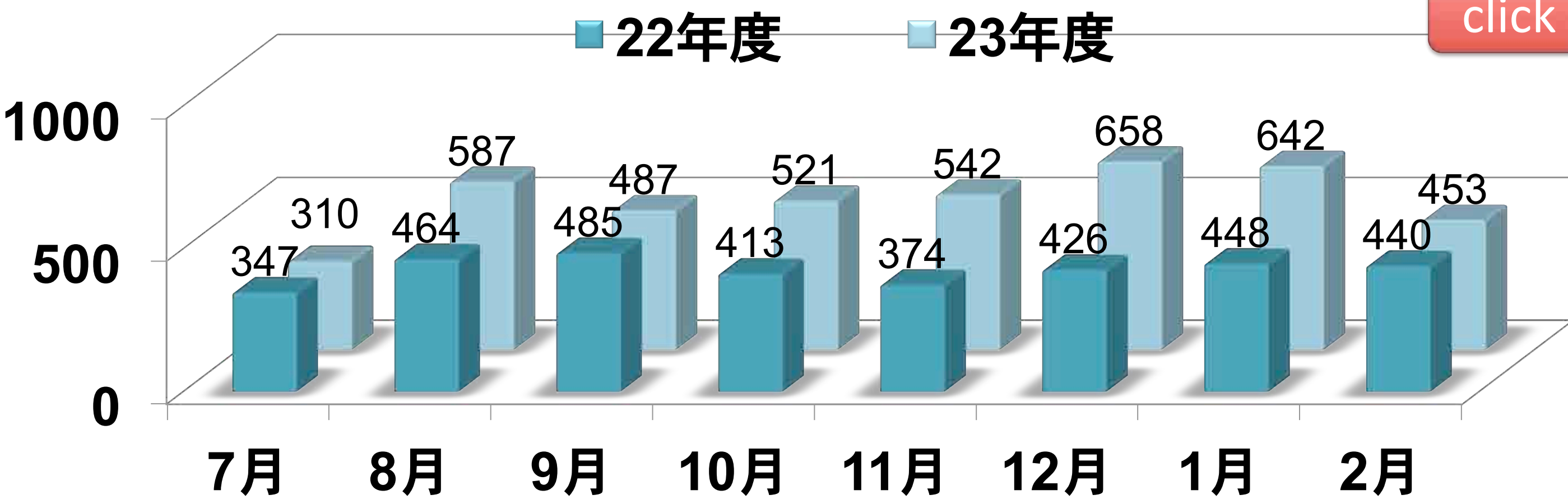
【考察】 支援開始当初には、小児科診療における需要と供給のアンバランスを生じつつも、2ヶ月に及ぶ医療救護班活動を行った。その後、救命救急センター、周産期センターを有する大船渡病院を基幹病院とし、気仙医療圏の中で高田病院を内包する診療支援(医師2名)体制を小児科学会に引き継いだ。その際、現地での需要を聴取した上で岩手県庁(保健診療開始に伴う支援医師の処遇)、大船渡病院(支援医師の宿泊、食事、交通手段)など各関係機関に多大な調整をして頂いた。

【結語】 被災地における震災医療支援を復興、そして地域医療支援へ継続するべく関係各位と連携を図った。現在、岩手県立大船渡病院総救急患者数**19%増**、小児救急**28%増**、高田病院 小児科外来患者数**28%増**となり、小児科診療における需要が急増している。今後も、「細く長い」支援の継続をして参りたい。 www.pref.iwate.jp/~hp0365/または、google検索「岩手 医師」で「**岩手県医師支援推進室**」

■ 小児22年度 ■ 小児23年度 ■ 成人22年度 ■ 成人23年度



【岩手県立大船渡病院 救急受診者数 比較】



【岩手県立高田病院 小児科受診者数 比較】

